

愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ） / （成長タイプ）

追加型投信 / 内外 / 資産複合
 信託期間：無期限
 決算日：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基準日：2022年8月31日

安定タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

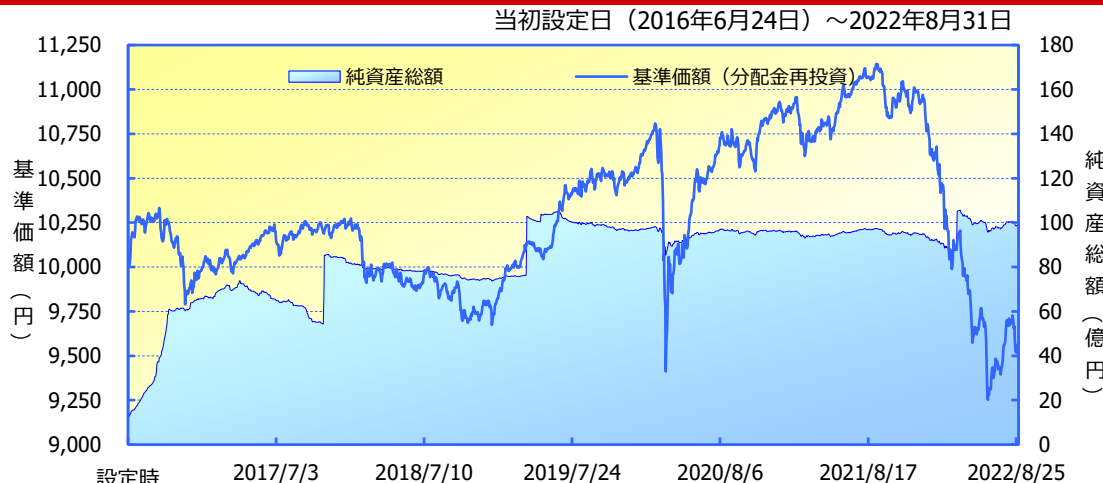
「基準価額・純資産の推移」

2022年8月31日現在

| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 9,494 円 |
| 純資産総額 | 98億円 |

期間別騰落率

| 期間 | ファンド |
|------|---------|
| 1か月間 | -1.0 % |
| 3か月間 | -2.8 % |
| 6か月間 | -7.1 % |
| 1年間 | -14.4 % |
| 3年間 | -9.5 % |
| 5年間 | -7.1 % |
| 年初来 | -13.5 % |
| 設定来 | -5.1 % |



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

| 決算期（年/月） | 分配金 |
|-------------|--------|
| 第1期 (17/06) | 0円 |
| 第2期 (18/06) | 0円 |
| 第3期 (19/06) | 0円 |
| 第4期 (20/06) | 0円 |
| 第5期 (21/06) | 0円 |
| 第6期 (22/06) | 0円 |
| 分配金合計額 | 設定来：0円 |

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

| ファンド名 | 比率 |
|--------------------|--------|
| 国内株式ファンド | 3.2% |
| 先進国株式ファンド | 3.1% |
| 新興国株式ファンド | 3.2% |
| 国内REITファンド | 5.0% |
| 先進国REITファンド | 4.8% |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 53.2% |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 26.5% |
| コールローン、その他 | 1.0% |
| 合計 | 100.0% |

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
 ※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
 ※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

| 通貨 | 比率 |
|-----------|--------|
| 日本円 | 90.0% |
| 米ドル | 9.3% |
| ユーロ | 0.7% |
| 豪ドル | 0.3% |
| シンガポール・ドル | 0.2% |
| カナダ・ドル | 0.1% |
| オフショア人民元 | 0.1% |
| 英ポンド | 0.1% |
| 香港ドル | 0.1% |
| その他 | 0.0% |
| 合計 | 100.0% |

「ファンドマネージャーのコメント」

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

8月は、トルコが政策金利を引き下げ、ブラジルではインフレ率が市場予想を下回ったことなどから新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドは上昇しましたが、米国で発表された雇用統計の結果が堅調であったことや、欧州ではインフレ率のさらなる上昇懸念から利上げ観測が高まり、先進国債券（為替ヘッジあり）ファンドが大きく下落したことから、ファンド基準価額は下落しました。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上で自身でご判断ください。8ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

設定・運用



ワイエムアセットマネジメント

商号等

ワイエムアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号

加入協会

一般社団法人投資信託協会

安定タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

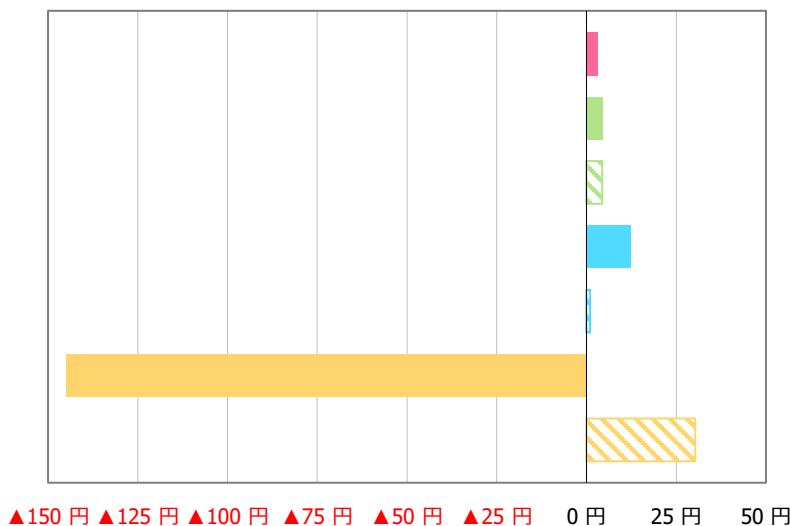
| 投資信託証券（ファンド名） | 運用会社名 | 主な投資方針 | 騰落率 | | | |
|--------------------|--------------|---|-------|-------|--------|---------|
| | | | 1カ月間 | 3カ月間 | 6カ月間 | 設定来 |
| 国内株式ファンド | 大和アセットマネジメント | 国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.0% | +2.4% | +5.8% | +85.9% |
| 先進国株式ファンド | | 日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.4% | +4.1% | +11.6% | +161.3% |
| 新興国株式ファンド | | 新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.3% | +3.8% | +3.8% | +86.9% |
| 国内REITファンド | | 国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +2.7% | +3.4% | +11.8% | +48.5% |
| 先進国REITファンド | | 日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +0.1% | +2.2% | +9.9% | +66.7% |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | | 先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。 | -2.8% | -3.5% | -9.1% | -10.2% |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | | 新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。 | +1.1% | -5.0% | -12.3% | -19.7% |

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

| | |
|--------------------|---------|
| 2022年8月末の基準価額 | 9,494 円 |
| 2022年7月末の基準価額 | 9,593 円 |
| 変動額 | ▲99 円 |
| 内訳 | 合計 |
| 国内株式ファンド | 3 円 |
| 先進国株式ファンド | 4 円 |
| 新興国株式ファンド | 4 円 |
| 国内REITファンド | 12 円 |
| 先進国REITファンド | 1 円 |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | ▲145 円 |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 30 円 |
| 小計 | ▲89 円 |
| 分配金 | 0 円 |
| 信託報酬、その他 | ▲10 円 |

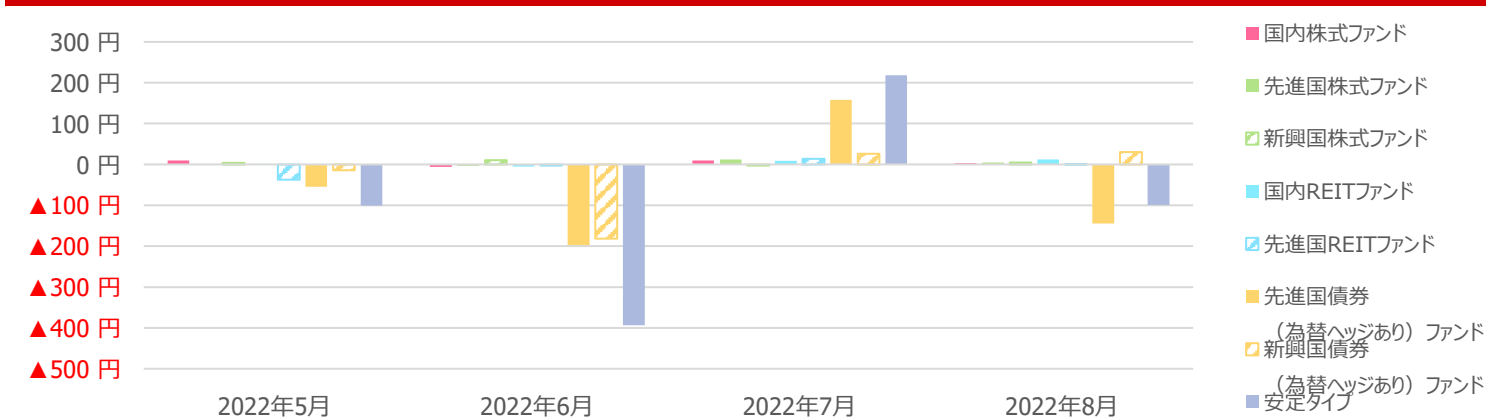


※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ） / （成長タイプ）

追加型投信 / 内外 / 資産複合

信託期間：無期限

決算日：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基準日：2022年8月31日

成長タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

「基準価額・純資産の推移」

2022年8月31日現在

| | |
|-------|----------|
| 基準価額 | 11,990 円 |
| 純資産総額 | 32億円 |

期間別騰落率

| 期間 | ファンド |
|------|---------|
| 1か月間 | -0.2 % |
| 3か月間 | -0.7 % |
| 6か月間 | -1.3 % |
| 1年間 | -7.8 % |
| 3年間 | +5.9 % |
| 5年間 | +10.7 % |
| 年初来 | -8.4 % |
| 設定来 | +19.9 % |



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

| 決算期（年/月） | 分配金 |
|-------------|--------|
| 第1期 (17/06) | 0円 |
| 第2期 (18/06) | 0円 |
| 第3期 (19/06) | 0円 |
| 第4期 (20/06) | 0円 |
| 第5期 (21/06) | 0円 |
| 第6期 (22/06) | 0円 |
| 分配金合計額 | 設定来：0円 |

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

| ファンド名 | 比率 |
|--------------------|--------|
| 国内株式ファンド | 8.2% |
| 先進国株式ファンド | 8.1% |
| 新興国株式ファンド | 8.3% |
| 国内REITファンド | 12.6% |
| 先進国REITファンド | 12.3% |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 33.2% |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 16.4% |
| コールローン、その他 | 1.0% |
| 合計 | 100.0% |

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
 ※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
 ※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

| 通貨 | 比率 |
|-----------|--------|
| 日本円 | 72.0% |
| 米ドル | 24.5% |
| ユーロ | 1.8% |
| 豪ドル | 0.8% |
| 英ポンド | 0.4% |
| シンガポール・ドル | 0.4% |
| カナダ・ドル | 0.4% |
| 香港ドル | 0.1% |
| オフショア人民元 | 0.1% |
| その他 | 0.0% |
| 合計 | 100.0% |

「ファンドマネージャーのコメント」

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

8月は、日本政府が水際対策の緩和など感染第7波収束後の経済活動の正常化を見据えた方針を発表し、国内REITファンドが上昇、また新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドなども上昇しましたが、米国や欧州で金利上昇懸念が高まったことで先進国債券（為替ヘッジあり）ファンドが大きく下落したことから、ファンド基準価額は下落しました。

成長タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

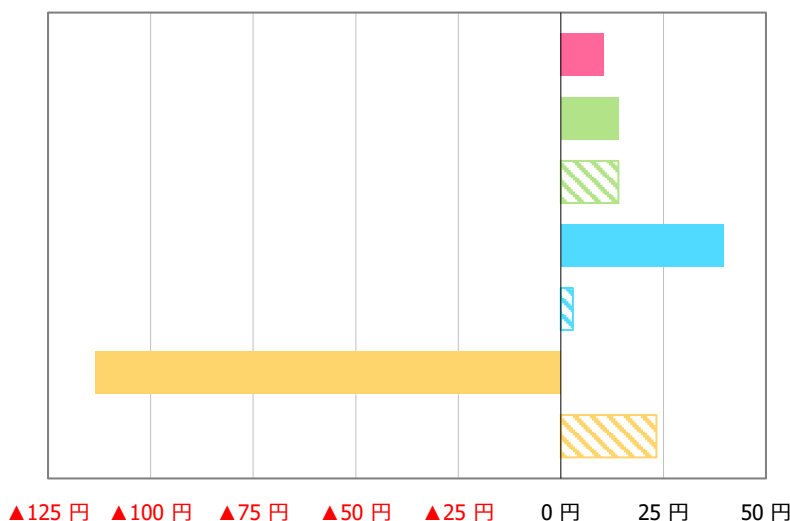
| 投資信託証券（ファンド名） | 運用会社名 | 主な投資方針 | 騰落率 | | | |
|--------------------|--------------|---|-------|-------|--------|---------|
| | | | 1カ月間 | 3カ月間 | 6カ月間 | 設定来 |
| 国内株式ファンド | 大和アセットマネジメント | 国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.0% | +2.4% | +5.8% | +85.9% |
| 先進国株式ファンド | | 日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.4% | +4.1% | +11.6% | +161.3% |
| 新興国株式ファンド | | 新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +1.3% | +3.8% | +3.8% | +86.9% |
| 国内REITファンド | | 国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +2.7% | +3.4% | +11.8% | +48.5% |
| 先進国REITファンド | | 日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。 | +0.1% | +2.2% | +9.9% | +66.7% |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | | 先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。 | -2.8% | -3.5% | -9.1% | -10.2% |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | | 新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。 | +1.1% | -5.0% | -12.3% | -19.7% |

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

| | |
|--------------------|----------|
| 2022年8月末の基準価額 | 11,990 円 |
| 2022年7月末の基準価額 | 12,013 円 |
| 変動額 | ▲23 円 |
| 内訳 | 合計 |
| 国内株式ファンド | 11 円 |
| 先進国株式ファンド | 14 円 |
| 新興国株式ファンド | 14 円 |
| 国内REITファンド | 40 円 |
| 先進国REITファンド | 3 円 |
| 先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド | ▲114 円 |
| 新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド | 23 円 |
| 小計 | ▲9 円 |
| 分配金 | 0 円 |
| 信託報酬、その他 | ▲14 円 |

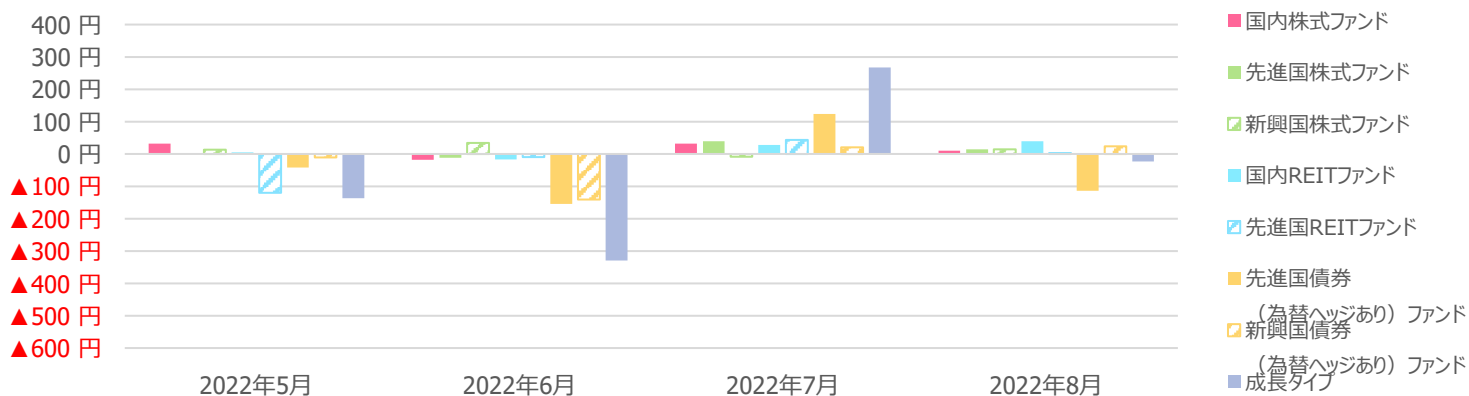


※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



(国内株式)

国内株式市場は上昇しました。上旬は台湾に関する米中対立懸念が高まった一方、国内企業の4-6月期決算はコンセンサス対比では堅調との見方もあり横ばい圏で推移しました。中旬に入ると、米国物価関連統計の下振れによる米インフレ懸念の後退が好感され、株価は上昇しました。下旬に行われたFRB（米国連邦準備制度理事会）議長講演で利上げ継続姿勢が強調され、米国利上げ懸念が高まったものの、月間ではプラスとなりました。

(先進国株式)

先進国株式市場は下落しましたが円安によりファンドは上昇しました。上旬から中旬にかけては、米国の一部物価指標の伸び率鈍化を受け、米国のインフレピークアウト期待が高まり、米国株が上昇しました。しかし、下旬に入ると、欧州ではインフレ高進への警戒や天然ガス調達への不透明感から、米国ではFRB議長講演において利上げ継続姿勢が強調されたことへの懸念から、欧米株共に下落しました。

(新興国株式)

新興国株式市場は横ばいで推移しましたが円安によりファンドは上昇しました。月初は、台湾をめぐる地政学リスクの高まりなどから、中国を中心に下落して始まりました。月半ばにかけては、米国のインフレピークアウト観測などから投資家心理が改善し、上昇しました。その後は、低調な経済指標を受けた中国景気の低迷懸念や米国の長期金利上昇への警戒感を背景に反落しました。月末にかけては中国政府による景気対策への期待感などから、値を戻しました。各国でみるとサプライズで利下げを実施したトルコの株式が上昇しました。

(国内リート)

国内リート市場は上昇しました。日米の長期金利が上昇、今後も海外金融政策の引き締めが続くことが意識されるなかでの上昇で、底堅さを感じる推移でした。月末に日本政府は新型コロナウイルス対策として、水際対策の緩和など、現在の感染第7波収束後の経済活動の正常化を見据えた方針を発表したことも国内リート市場の上昇を後押ししました。

(先進国リート)

先進国リート市場は下落しましたが円安によりファンドは横ばいとなりました。月初は、長期金利の上昇を嫌気し、さえない展開となりました。その後はインフレのピークアウトが期待される中、良好な決算を発表した貸倉庫などを中心に上昇基調となりました。月半ば以降は、長期金利の上昇への警戒感や短期的な相場上昇の反動から軟調に推移しました。月末にかけても、パウエルFRB議長のタカ派的発言などを背景に続落しました。

(先進国債券)

先進国債券市場は大幅に下落(金利は上昇)しました。米国では、月上旬に発表された雇用統計の結果が堅調であったことから、金融引き締めによる景気悪化懸念が後退し、金利は上昇しました。また、引き続き世界的にインフレ率が高止まりしていることから、他の先進国もおおむね金利は上昇しました。特に欧州では、インフレ率のさらなる上昇懸念から利上げ観測が高まり、金利上昇幅が大きくなりました。

(新興国債券)

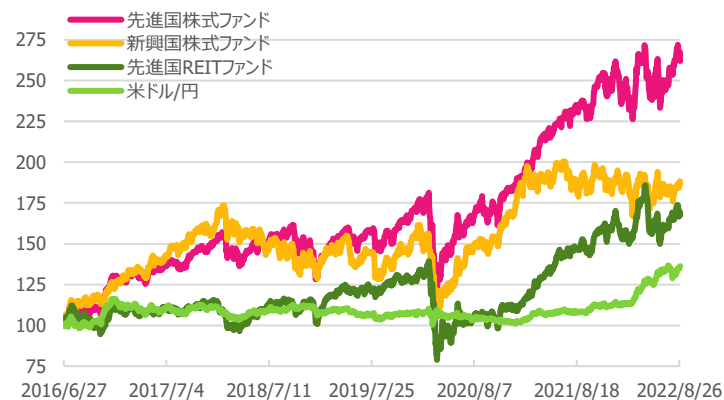
米ドル建て新興国債券に関しては、スプレッド(米国債との利回り格差)は国によってまちまちな動きとなりました。ブラジルでは、中央銀行が利上げを実施したものの、インフレ率が市場予想を下回ったことから、スプレッドが低下しました。トルコも政策金利を引き下げました。

(為替)

為替市場では、投資対象通貨は対円でおおむね上昇しました。米国金利が上昇すると、日米金利差の拡大などから円安米ドル高基調となりました。また米国や欧州など各国・地域の中央銀行がインフレ抑制のために金融引き締めを継続する姿勢である一方、日銀は引き続き金融緩和政策を維持していることから円が弱含んで推移し、その他の通貨も対円でおおむね上昇しました。

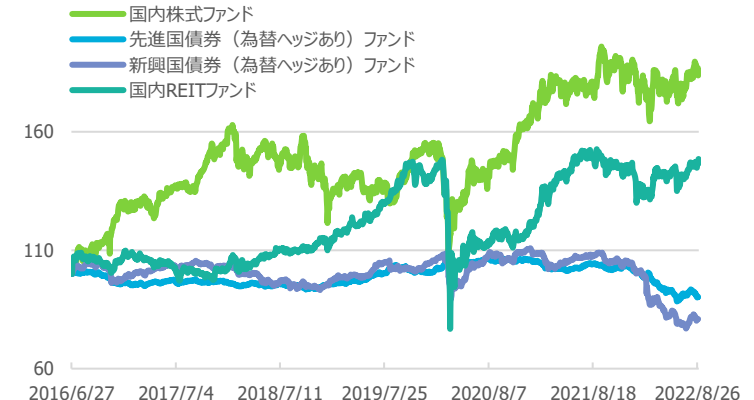
新興国通貨は、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。新興国の多くがインフレ対策や通貨防衛などのために金融引き締めを行っており、利上げ傾向にありました。また、堅調な米国経済指標や複数のFRB高官による金融引き締めを継続する発言から米国金利が上昇し、日米金利差の拡大を背景に米ドル円相場が円安米ドル高方向に進行したことから、新興国通貨も対円で上昇しました。

組入ファンド(為替ヘッジなし)と為替の価格の推移



※ファンド設定日を基準として指数化しています。

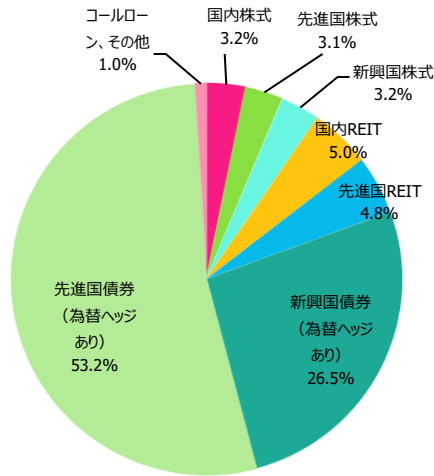
組入ファンド(為替ヘッジありおよび国内資産)の価格の推移



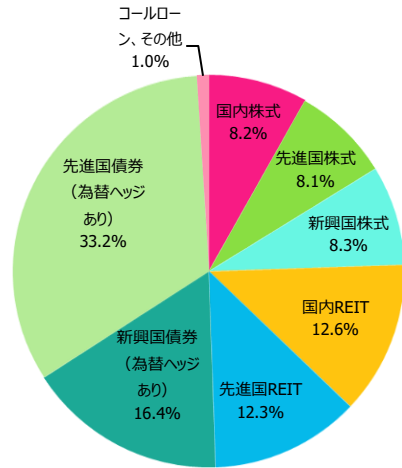
「各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較」

資産別組入ファンド比率（純資産比）

安定タイプ



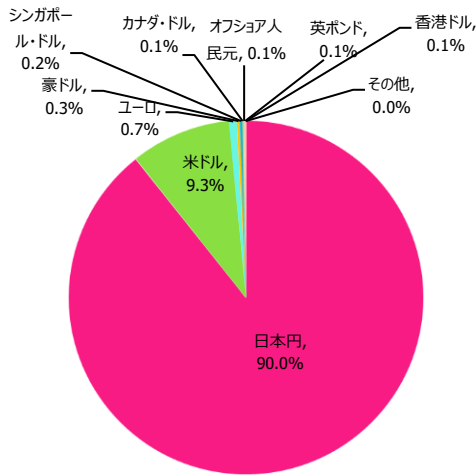
成長タイプ



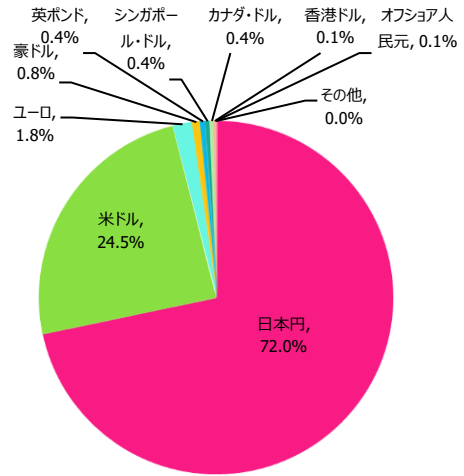
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

通貨別構成（純資産比）

安定タイプ



成長タイプ



※大和アセットマネジメントのデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。

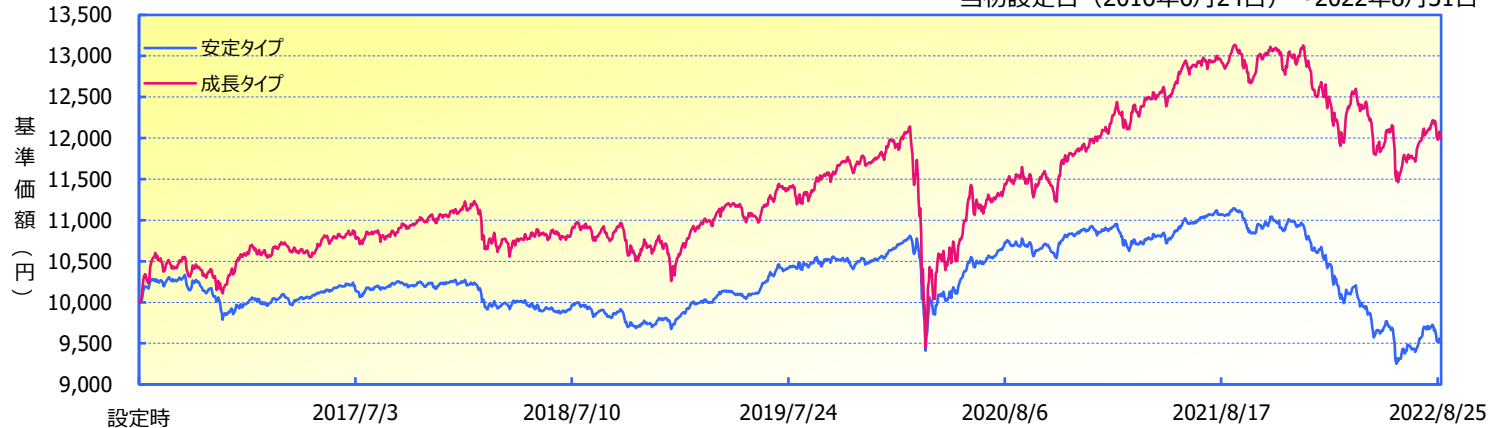
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

基準価額（分配金再投資）の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日（2016年6月24日）～2022年8月31日



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「ファンドの目的・特色」

ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」
YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

「投資リスク」

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

「ファンドの費用」

| お客さまが直接的に負担する費用 | | |
|----------------------|---|-----------------------------|
| 購入時手数料 | ありません。 | |
| 信託財産留保額 | ありません。 | |
| お客さまが信託財産で間接的に負担する費用 | | |
| 運用管理費用 （信託報酬） | 運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率 | |
| | 安定タイプ | 成長タイプ |
| | 年率 1.1275%（税込） | 年率 1.2375%（税込） |
| 投資対象とする 投資信託証券 | 年率 0.209%（税込）～年率 0.330%（税込） | 年率 0.209%（税込）～年率 0.330%（税込） |
| 実質的に負担する 運用管理費用 | 年率 1.406%程度（税込）* | 年率 1.510%程度（税込）* |
| その他の費用・ 手数料 | 監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただけます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。 | |

* 実際の組入状況等により変動します。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

「当資料のお取り扱いにおけるご注意」

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみならず投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみならず投資元本の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）
当社ホームページ
▶ <http://www.ymam.co.jp/>

「販売会社」

| 販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名） | 登録番号 | 加入協会 | | | |
|-------------------------------|----------------------------|---------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| | | 日本証券業協会 | 一般社団法人 金融先物 取引業協会 | 一般社団法人 日本投資 顧問業協会 | 一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会 |
| 株式会社北九州銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第117号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社もみじ銀行 | 登録金融機関 中国財務局長（登金）第12号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社山口銀行 | 登録金融機関 中国財務局長（登金）第6号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号 | ○ | ○ | | ○ |
| ワイエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号 | ○ | | | |

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。